

令和 7 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。 評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

尼 崎 市 立 尼 崎 双 星 高 等 学 校

令和7年度 学校評価

【教育の基本方針】(第2次尼崎市教育振興基本計画)

- 1 個の尊厳や人権の尊重
- 2 未来志向の教育
- 3 家庭・地域社会との連携

[各校の重点取組について]

- 1 基礎学力の確実な定着を図った上で、各科の特色ある教育活動をより積極的に展開し、生徒個々に合った「社会とつながる専門性」を身に付け、高めていくことができるよう、教科、学年等が連携して教育活動を展開していく。
- 2 生徒一人一人が将来への高い志を持ち、その実現に向けて粘り強く努力していく過程について、学力向上をはじめ多方面で支援し、同時に、将来社会に必要とされる人材に成長していくことを目指し、心身ともに健全に成長し、また、周囲とよい人間関係が構築していけるよう、全教職員が協力して取り組む。
- 3 いつ見舞われるか分からない災害や事故等に対する危機意識を向上させ、いざという時に自分や周りの命を守れるよう防災教育・安全教育の充実、強化を目指す。
- 4 学校ホームページその他、あらゆる機会を通じて、学校教育活動や運営状況の広報・発信に努め、保護者や地域社会との連携を深めることによって、開かれた学校づくりを推進する。

学校評価の観点

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
1 学ぶ力と健やかな体の育成 (1) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得及び、思考力、判断力、表現力を育むとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による確かな学力を育成する。 (2) 多様な視点や価値観で物事を見つめる実体験を大切に、課題解決能力を高める学習を充実を図る。 (3) 運動に親しむ習慣づくりを促進し、運動能力向上に努めるとともに、様々な健康課題を踏まえた健康教育を推進する。 (4) 給食の活用等による発達段階に応じた食育を推進するとともに、家庭や地域への理解を図る。	3.4	3.5
取組	成果	課題と改善策
長期休業日に「基礎」・「応用」という段階に応じた各教科の補習を実施し、「基礎」では、知識・技能の習得、「応用」では、思考力・判断力・表現力の育成を目指した補習授業を行う。その中で、個別最適な学びと、学習習慣の定着を目指す。(教務部)	今年度は各教科の協力のおかげで3年生は過去最高数の補習授業の設定ができた。そのため、個別最適な学びを提供できたのではないかと考えている。	1・2年生の補習授業の充実が課題と考えており、次年度は各教科に協力を要請したい。
総合的な探究の時間の教員研修を実施し、職員の理解を深めることによって、生徒の協働的な学びを深めることを目指す。(教務部)	大学の教授を招待しての教員研修を2度実施することができた。	一部の職員の参加となっていることが課題で、職員会議と同日実施できるように日程調整をしたい。
「ほけんだより」の発行により、健康的な日常生活が送れるように情報発信等を行う。(保健部)	ほぼ定期的に発行できた。	よりタイムリーな内容にしていきたい。

<p>1年生全員に図書貸出体験を実施し、充実した図書館に興味を持たせるとともに、スタンプカードに取り組み、読書習慣を育成する。「図書館だより」を定期的に発行し、新着図書を紹介していくとともに、図書委員が主体となる企画(ビブリオバトルなど)を実施し、図書館利用者、貸出者・貸出冊数の増加を図る。(人権・図書部)</p>	<p>1年生全員に図書貸出体験をさせたことで、充実した図書館に興味を持たせることができたが、続けて読書していくという読書習慣の育成には至らなかった。夏休み明け2学期にビブリオバトルを実施したことにより、図書委員全員と読書感想文を提出した生徒が参加することができた。</p>	<p>充実した図書館の体験を確実に読書習慣につなげていく指導と企画の実施。図書委員以外の生徒も多く参加するビブリオバトルの開催。そのことによる図書館利用者の増加、読書活動推進、読書習慣育成を図りたい。</p>
<p>全校生徒に読書感想文を募集し、積極的に提出された作品の中から、優秀な作品(学校代表)を選出し、「青少年読書感想文コンクール兵庫県阪神高校支部」に応募する。その他の公募、読書感想文コンクールにも、希望者を応募させる。(人権・図書部)</p>	<p>校内に提出された読書感想文は13点だったが、優秀な作品が多く、2作品を「読書感想文コンクール兵庫県阪神高校支部」に応募した。2作品とも、入賞し、優秀賞と佳作に選ばれた。兵庫県読書感想文コンクールにも、4作品に応募した。その内、1点が優秀賞に選ばれた。</p>	<p>「読書感想文コンクール」「読書感想文コンクール」にもっと多くの生徒に参加させる。</p>
<p>職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基盤を確実に身につけさせることが求められることから、資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努める。(ものづくり機械科)</p>	<p>計算技術検定3級は機械設計、情報技術検定3級は工業情報数理で、基礎製図検定、トレース検定は機械製図で、機械製図検定は選択製図で、初級CAD検定、パソコン利用技術検定は選択情報で検定対策ができた。</p>	<p>その他溶接技能者評価試験、ガス溶接、被覆アーク溶接、危険物乙種4類等の受験者が皆無に近いので促していきたいが、受験料が高くなってきているのも問題である。</p>
<p>職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基盤を確実に身につけさせることが求められることから、資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努める。(電気情報科)</p>	<p>電気工事士の上級資格である第1種電気工事士に挑戦する生徒も毎年安定し受験していた。今年度は合格率37.1%(13名合格)であった。</p>	<p>資格試験に合格した生徒が他生徒を教え合う文化が進めば、もっと合格率が向上すると思う。今後は、学年を超えた生徒間の教え合う環境をつくっていくことが課題だと考える。</p>
<p>職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基盤を確実に身につけさせることが求められることから、資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努める。(商業学科)</p>	<p>商業学科においては、各科目を通して、検定の受検・合格への意欲を高め、積極的に取り組むことができた。その結果、13期生では1月現在全商検定9科目のうち1級9科目合格1名と優秀な結果を収めている。6年連続で9科目合格者を輩出している。1・2年生も自分の進路実現のために必要な資格取得を意識し、努力している。</p>	<p>3学年ともに単独のクラスになったことで授業や資格取得等への取り組みがクラスとしてモチベーションを上げることが出来ているように思う。</p>
<p>阪神間の企業の協力を得て、インターンシップを行い、自分の将来をじっくりと考える意識を高めさせる。(ものづくり機械科)</p>	<p>インターンシップを11月11日から3日間実施した。また2年生の授業では川崎重工に就職した卒業生の講話を実施し、将来について考えさせる機会を設けた。</p>	<p>幅広い業種の企業人に講話を頂けるように発展させることが課題だと考える。</p>
<p>インターンシップの実施や卒業生の話を聞く機会を設け、将来についての意識を高めさせる。(電気情報科)</p>	<p>インターンシップを11月11日から3日間実施した。また、3年生の授業では、三菱電機、彩光、関西電力、住友電工に就職した卒業生からの講話を実施し、将来について考えさせる機会を設けた。</p>	<p>幅広い業種の企業人に講話を頂けるように発展させることが課題だと考える。</p>
<p>アカデミックインターンシップに参加し、学ぶことの楽しさや学習意欲の向上を図る。(電気情報科)</p>	<p>本年度も9月11日(木)に電気情報科生徒を対象に実施した。</p>	<p>アカデミックインターンシップでお世話になっている産業技術短期大学が来年度からの募集を停止します。今後アカデミックインターンシップの実施について考える必要がある。</p>
<p>高大連携授業を行い、学問の面白さにふれ、学ぶことの楽しさを感じさせ、学習意欲の向上を図る。(商業学科)</p>	<p>今年度は兵庫県商業教育協会主催の高大連携授業への参加が中間考査とかぶり参加できなかった。中間考査の時期が他校より遅いので時期の見直しをしてほしい。昨年の参加生徒は大学進学のための目的やそこでの学び、自らを成長させることができる環境に触れ、意欲向上につながっている。</p>	<p>高大連携授業として実際に大学へ足を運ぶ機会や大学から講師を招き、大学での学びに触れる機会をもっと増やすことで、生徒の進路選択に生かせるようにすることが課題である。大学側が実施している出張講義等を活用したり、近隣大学と連携し高大連携授業を実施することを検討したい。</p>

阪神間の企業の協力を得て、インターンシップを行い、自分の将来をじっくりと考える意識を高めさせる。(商業学科)	今年度は企業に3日間インターンシップを実施した。社会人として必要となるマナーや基本的な知識、学校での商業の学びから実社会へのつながりを強く意識できたようである。	状況に応じて、柔軟に予定を変更するなどして、できる限り多くの機会を設けるように考えたい。
外部講師による講話を通じて、社会的自立に向けた態度・能力の育成に努める。(商業学科)	商業学科においては、尼崎市内の企業や尼崎税務署などから講師を派遣していただき、商業の学びを深めると共に、商業の学びが実社会でどのように活かされるかを知ることができた。	状況に応じて、柔軟に予定を変更するなどして、できる限り多くの機会を設けるように考えたい。
音楽類型の授業ではできるだけ自ら考え、実践する授業を心がける。芸術選択では、各自が積極的に課題に取り組めるような授業を心がける。(芸術科)	技術面の向上と、表現力を高めるという両面において向上できるよう、各自が工夫し、考えで取り組めるようにした。音楽に取り組むにあたって、必要な正しい知識、ソルフェージュを身につけるために日々の授業で取り組めた。	1年生では音楽Ⅰが2時間しかないので、その2時間で、音楽理論の基礎、ソルフェージュ、楽器の仕組みなど、いろいろなことを勉強しないといけない。1時間の中でソルフェージュ、理論と二つのことをやろうとすると、どうしても時間が足りない状況になる。
生徒の自主的な進路選択を適切にサポートするとともに生徒それぞれの能力を伸長させ、将来の生活に活かせるよう指導する。(進路指導部)	自主的に進路について考える習慣がついてきている。	今後も生徒のニーズにあったものを考え実施する。
各自の進路希望に合わせたガイダンス(説明会)や個人面談を実施し、進路に関する意識を高めさせる。(進路指導部)	自主的に進路について考える習慣がついてきている。	今後も生徒のニーズにあったものを考え実施する。
外部講師の招聘や校外での研修会への参加を通じて、就職及び進学への意欲向上を図る。(進路指導部)	各学年、時期を考え適切に行った。	進路ガイダンスや面談の時期を考え適切に実施する。
「全国模試」を定期的実施、学習到達度を確認させるとともに進学希望者にきめ細かい指導を行う。(進路指導部)	年間計画を立て、計画的に実施した。	今後も生徒のニーズにあったものを考え実施する。
3学期に実施する「マラソン大会」に向けて、授業で持久走に取り組み、体力の向上と克己心の育成を図る。(保健体育科)	今年度は、諸般の事情により、校内でのマラソン大会への変更開催となったが、授業での取り組みは変えずに生徒の体力に応じた指導の充実を図った。	令和8年度は例年通りのマラソン大会実施出来るように開催時期も含めて準備を進めます。

2 多様性と包摂性のある教育の推進 (1) 支援を必要とする子ども一人ひとりへの多様な教育ニーズに対応するとともに、学校外のグラデーションある学びの場や他機関等との連携を推進する。 (2) インクルーシブ教育の推進と合理的配慮の提供に向けた体制の整備による切れ目のない支援の充実を図る。 (3) 共生社会の実現に向け、違いを認め合い、多様な文化的背景をもつ人々と豊かに共生する心、共に生きようとする意欲や態度を育む。	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.9	3.0
取組	成果	課題と改善策
学校だけでなく、校外のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、などとも連携して対応する。(生徒指導部)	いじめ対応などで連携して取り組むことができ、一定の評価を得ている。	今後もさらに連携を強化していきたい。
生徒の基礎的な人権教育の理解を促進するため、本校の人権教育方針に基づいて、人権教育読書・人権教育講座等を実施し、人権教育通信を発行する。(人権・図書部)	本校の人権教育方針に基づいて人権教育講座等を実施し、生徒の反応は良好であった。人権教育通信について、奨学金などについて発行したが、急遽人員が減り、対応できなくなり1号しか発行していない。	人権教育講座については講師料が捻出できるように制度を考えていただきたい。また人権教育通信については、来年度は複数名担当者を配置するため、人員増をお願いしたい。
特別な支援が必要な生徒について、中学からの申し送りを丁寧に確認し、必要に応じて個別の支援計画を立案・実施する。学校全体で特別支援教育の必要性を理解し協働していくべく委員会や研修などを活発に行う。また、適宜外部機関との連携を積極的に取り入れる。(特別支援教育コーディネーター)	年度当初に該当生徒・保護者をケース会議を行い、配慮事項を決定し、全職員で共有した。学期に複数回会議を行い、情報交換をし、対象生徒たちの見守りを続けた。3学期に担任より次年度に備えて、保護者・本人と配慮事項の確認を行った。	グレーゾーンの生徒への対応が難しく不十分であった。また、そのような生徒への保護者対応も難しいと感じた。次年度より、支援より配慮事項で対応を図っていきたい。

<h3>3 豊かな心の育成といじめ防止の取組</h3> <p>(1) 人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤に、自他の人権を守り、人権課題を解決しようとする実践的行動力を育成する。</p> <p>(2) 命を大切にしたい心や思いやりの心、規範意識等の醸成に向け「道徳教育」や「心の教育」やその充実を図るとともに、様々な体験活動を通して豊かな人間性と社会性を培う。</p> <p>(3) 一人ひとりの違いを認め合う仲間づくりを推進し、道徳科や特別活動、体験学習等を通じていじめの未然防止に努めるとともに、早期発見、早期対応に取り組む。</p> <p>(4) 尼崎市の歴史や伝統・文化への理解を深めるとともに地域への愛着等、児童生徒の感性を高め、豊かな情操を養う。</p>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.4	3.5

取組	成果	課題と改善策
「人権講話」の時間を設定し、聴講のうえ作文することにより、思いやりの心を育成し、基本的人権の尊重など身近な人権問題と関連させながら意識を高める。(1学年)	多文化共生についての講演を聞き、作文することで、他者とのかかわり方について思考を深め、違いを認め合って一緒に生きることの意識を高めることができた。	よく聞いている生徒もいたが若干名下を向いてしまう生徒もいた。このような生徒を巻き込んでいくためにも身近な話題や問題ごとを取り上げていき、人権の意識を高めていきたい。
映画「聲の形」を視聴して感想文を書き、優秀作を共有することで、社会的弱者の人権に配慮するマインドの涵養を図る。また、夏期休業中に三者面談を実施し、保護者との連携を深める。(2学年)	予定を変更して、映画「My small land」を視聴して感想文を共有した。それぞれの生徒に、社会的弱者への思いやりの心が養われたことが伺えた。また、三者面談を丁寧に実施することで、生徒の状況を保護者と共有できた。	来年も映画鑑賞などを通して生徒の人権意識を高めたい。三者面談については、遠方の生徒の保護者との面談について、リモートを活用する等の工夫も状況に応じて必要であると感じた。
夏期休業中の「三者面談」を中心に、必要に応じて随時、面談を実施し、学習・進路・日常生活の情報交換を行い、保護者との連携を深める。また、「人権講話」の時間を設定し、聴講のうえ作文することにより、豊かな心の育成を図る。(3学年)	「三者面談」を中心に、保護者との連絡を密にすることにより連携をはかることができた。また、「幸福について」をテーマとしたタンザニアでの野球指導を通じた人権講話を聴き、多文化共生など人権に関する理解を深めることができた。	一部の保護者と面談ができず、面談のやり方について様々な方法を検討する必要がある。また「人権講話」について、会場・講師・進路行事の関係で設定時期が難しく、早期からの準備が必要である。
全校集会や外部より招請した講師による講話、及び全校生徒の意識を高めるための呼びかけプリントの配布などを通して、常に生徒の心への働きかけを行い、道徳性の育成に努める。(生徒指導部)	生徒が考察する機会も増え、一定の成果を上げたと考えている。	年に数回行ったが、機会があれば増やしていきたい。
いじめアンケートを年3回行い、早期発見に努めている。いじめ対応チーム会議を定期的、かつ臨時に行い情報の共有を図り、対応を協議する。(生徒指導部)	いじめに関するアンケートからも早期に発見、対応ができたため、成果を上げている。また定期的に行うだけでなく、臨時にも会議で情報共有しており、迅速な対応をすることができた。	今後も早期発見、早期対応に努めるべく、拡充していきたい。
「学校保健委員会」を開催し、保護者や学校医も交え、家庭や地域との連携した学校保健活動を展開する。(保健部)	開催できた。	継続していきたい。
「保護者会」を開催し、おもに進路指導を中心に保護者との連携を図る。(進路指導部)	3年生は1学期、1・2年生は2学期に実施できた。	卒業生の進路状況など、その都度正確な情報を知らせる。
文化的教養を高め、豊かな情操と想像力を育成する「芸術鑑賞会」を実施する。(総務部)	3月に1年生が大阪四季劇場で公開される「ゴースト&レディ」を鑑賞する予定である。	来年度も引き続き劇団四季のミュージカル鑑賞の予定である。しかし、最近では対象となる物(劇、ミュージカル、古典芸能等)が様々な為、料金面も含めて検討していく余地がある。

4 教育環境の整備と教員の育成・勤務環境の整備	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.2	3.0

(1) ICTを活用した更なる多様な学びを実現を目指して、ICTを活用した学習のデジタル化を積極的かつ効果的に推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導力の向上を図る。

(3) 社会的な良識と人権感覚、高いコンプライアンス意識を持ち、子どもや保護者、地域社会から信頼される教員の育成を図る。

(4) 教員の働き方改革を推進するとともに、風通しの良い職場環境づくりを進め、働きがいのある学校園づくりを進める。

取組	成果	課題と改善策
Googleクラスルーム・ロイロノートスクール等のアプリケーションを活用することで、授業内外で教員から生徒に資料や補足説明等を発信でき、生徒の個別最適な学びをサポートする。(教務部)	全クラスのGoogleクラスルームの開設、ロイロノートスクールの設定等、ICTを活用した個別最適な学びをサポートする仕組みはできた。特にGoogleクラスルームは全クラス担任や授業担当者が頻りに資料や補足説明等を発信し、生徒のサポートを行うことができた。	ロイロノートスクールに関しては一部の教員からのみ使用となっている。他校の活用事例等を共有しながら生徒たちの学びのサポートができる体制を作っていきたい。
生徒のひとり1台端末を通じて、Googleドライブやロイロノートスクール等のクラウド上で協働して学ぶ仕組み作りが可能となり、授業内外で協働的な学びをサポートする。(教務部)	生徒のひとり1台端末を授業内外で活用することができた。また、自動採点システム「百問繚乱」での答案返却も端末を通じて行うことができた。	校内ネットワークが全生徒端末の台数に対応できていないため、全員がインターネットにアクセスすると繋がりにくくなる。教育委員会と連携してネットワークの増強を依頼していきたい。
教職員の資質・能力の一層の向上を目指した校内研修の在り方について検討し、実施していく。(管理職)	校内の研修として、いじめ防止研修を2回、カウンセリングマインド研修を実施し、教職員の資質向上を図った。また、専門家を招いて、総合的な探究の時間についての指導助言を受け、指導の充実に努めた。	年間を通して教職員が多忙な状況であり、校内研修の日程を設定することが困難になってきているため、内容を精選し、特に必要な研修を優先して研修計画を立てる。
教職員の業務改善に向けた校内の取り組み推進について検討し、実施していく。(管理職)	校長面談や提言シート、職場環境アンケート等を通じて教職員の意見を聴き、業務改善の取り組みを検討した。来年度から電話による朝の欠席連絡を連絡ツールによる欠席連絡に変更し、教職員の負担軽減を図る。	働き方改革や業務改善の課題に向けた取り組みはまだまだ不十分な面があり、次年度もさらなる検討を進めていく。

5 家庭地域社会一体となった教育の充実	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.3	3.5

(1) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的推進し、「地域とともにある学校づくり」の実現に向けて取り組む。

(2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る。

(3) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る。

取組	成果	課題と改善策
今年度から設置する学校運営協議会を年3回開催し、学校運営方針を共有するとともに、コミュニティスクールとして、地域学校協働活動を推進する。(管理職)	学校運営協議会を3回開催し、学校運営方針を共有し、学校の課題や地域の課題について、さまざまな意見をいただいた。コーディネーターの尽力で、地域連携活動を活性化させることができた。	初年度ということもあり、手探り状態での運営であったが、次年度はコミュニティスクールとしてさらに地域学校協働活動の活性化を推進していく。
「AED」及び「普通救命救急法」の講習会、「避難訓練」などを実施し、教職員及び生徒の防災意識を高揚させ、危機管理能力の向上を目指す。(総務部、保健部)	消防署と実施方法を検討し、6月に火元を調理室と想定した火災避難訓練を実施した。今回は雨天時を想定し、体育館を避難場所とした。校内の防火シャッターも作動させた。さらに11月には、地震・津波防災訓練、講演会を実施した。(総務部)救命講習会を実施できた。(保健部)	状況に応じた的確な判断力と行動力を習得し、組織としての対応力をさらに高めることが課題である。いろいろな災害・状況を想定して実施するように努めていく必要がある。(総務部)来年度から2日開催を1日開催にして学年半分を1時間半で実施する。(保健部)

安全な学校づくりのために、学校施設の安全点検を各学期に行い、危険箇所の早期発見に努める。(総務部)	学期ごと校内の施設・設備の危険箇所を調査し、また随時受け付けも行った。気づいたことがあればいつでも受け付けられるようにした。	施設・設備の老朽化が進み、危険箇所の報告は少なくない。安全な学校づくりのために、危険箇所が無いが、教員間で普段から意識するようにしたい。
中学生及びその保護者対象に「学校説明会」及び音楽類型体験入学を(年間計4回)開催し、本校の教育方針の説明や施設の見学を通して、本校の魅力をアピールする。また、中学校に出向いての出張説明会にも積極的に参加する。(総務部)	多くの中学生や保護者に参加してもらい、本校を知ってもらう良い機会となった。第2回からは、生徒主体で開催することができた。来年度も継続していきたい。8月の説明会では熱中症対策として、リモートで開催した。	運動部の公式戦と説明会の日程が重なり、学校で活動している姿を見ることができないことがあった。開催時期を検討し、ひとつでも多くの部活動を中学生や保護者に見てもらえるようにしたい。また、開催の時期や方法を引き続き検討していきたい。
ホームページの更新を頻繁に行い、本校を知ってもらうための情報発信に努める。(総務部)	ホームページの更新をこまめに行い、校内の様子や本校に関する最新の情報を掲載するなどして、本校を幅広く知ってもらうための情報発信ができた。また、写真をより多く掲載することができた。	更新頻度が少ないページがある。本校をより知ってもらうためにも、教員間で協力したい。
実習授業前に必ず集合し、服装や体調の確認を行い、安全に対する注意喚起に努める。(ものづくり機械科)	安全に対する注意喚起はできが、溶接で綿の作業着に引火し火傷を負う不慮の事故があった。	綿の作業着が引火して火傷を負うことが今後ないように、来年度入学生の実習服は難燃素材に仕様変更した。

教育目標		評価 I (教職員)	評価 II (校園長)
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		3.6	3.5
取組	成果	課題と改善策	
各教科で教育目標・年間計画(シラバス)を作成し、目標達成に向け学校全体で取り組む体制を作る。(教務部)	各教科の教育目標・年間計画(シラバス)の作成を行うことができた。	シラバスの作成に時間がかかるため、シラバスのレイアウトの改善が必要。	
各種検定取得に取り組むことで、ビジネスに関する幅広い知識・技術を身に付ける。卒業後の進路決定に役立つよう、より高いレベルの検定資格の取得を目指す。(商業学科)	今年度も1月現在、全商検定9冠取得者が1名出ており、ほかにも多くの生徒が多数1級取得することができた。この結果から国公立大学への進学も果たした。就職時にも高い評価を得ている。	上級生による成果(進路実績)を下級生に知らせることで、検定取得へのさらなる意欲向上を目指す。	

研究テーマ		評価 I (教職員)	評価 II (校園長)
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		3.2	3.0
取組	成果	課題と改善策	
①検定前に実施する補習時には、担当授業や学年の枠を越え、商業学科全ての教員がその指導に当たり、情報交換を行うことで、生徒の学習理解度等の情報共有を行う。 ②3年生課題研究では、商工会議所や、地元企業と提携し、地域の企業の経営課題改善に取り組む。4年間で身に付けた商業の知識技術を活用でき、地域にも貢献する。また、商業の学びに対する興味関心がより深くなり、自ら学ぶ態度の育成に繋げる。(商業学科)	①検定前に全ての教員が指導にあたることで、生徒の学習理解度も知ることができ、検定の合格率も上がっているように思う。 ②課題研究では、小学校へプログラミングの授業を教えに行ったり、地域の企業の経営課題に取り組むことができた。	①教員間の情報共有をより深め、生徒の学力向上、資格取得に向け効率よく指導できる形を継続して、模索する。 ②新カリキュラムにおける新たな教科との関連を考えつつ、継続的な学習や新たな取り組みが行えるよう、外部機関との情報交換を積極的に行う。	
各委員会、各教科等で学習指導や生徒指導のあり方について、(必要であれば、外部講師を招聘し、)「研修会」を企画する。(保健部)	カウンセリングマインド研修を実施した。	より現場のニーズに即した内容にする。	
人権教育を実りのあるものにするため、教職員向けの人権教育研修会を実施する。(人権・図書部)	人権・図書部としては未開催であるが、市から各種研修会が行われた。	職員研修が行われるため、本校独自の研修は予算もつかないことから実施は難しい。	
各委員会、各教科等で学習指導や生徒指導のあり方について、(必要であれば、外部講師を招聘し、)「研修会」を企画する。(生徒指導部)	定例の生徒指導委員会での情報共有を行った。また外部講師による主にいじめに関する内容において一定の成果を上げた。	引き続き取り組み拡充していきたい。	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準 4:よく取り組んでおり、成果が大きい 3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2:取り組んでいるが成果が十分でない 1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 学ぶ力と健やかな体の育成</p> <p>・普通科:専門学科がある中できめ細かく取り組まれています。インターネットが普及した時代で困難ではありませんが、図書館の利用率を上げる工夫をお願いします。</p> <p>・長期休業日等の補習については、各教科の協力のもと、教員の人数・持ち時間数・教室の確保等課題はあると思いますが、継続してください。定期的に「ほけんだより」を発行し、健康的な日常生活が送れるように情報発信等を継続してください。読書についての啓発・促進活動を継続し、図書館利用者・貸出者・貸出冊数の増加を図ってください。生徒の進路選択については、専門3学科とも、資格取得・インターンシップ等を通しての取組でかなりの成果があがっていることは素晴らしいと思います。また普通科においても更なる進学実績向上を目指してください。今後とも、「生徒が自ら考え、自ら行い、自ら責任を持って」、自主的・主体的に進路選択ができるような適切なサポートをお願いします。</p> <p>・普通科、ものづくり機械科、電気情報科、商業学科と商工の専門科があり、かつ多くの生徒が在席している環境下で、それぞれの科に即したきめ細やかな対応が実施されていることが伺える。特に即戦力として就職も期待される科において、企業との接点や卒業生の話を聞く機会、資格・検定を取得させる等、3年生を迎えるまでに、就職に必要な技術や認識等がしっかりと培われており、高い就職率もうなずける。</p> <p>また、地域に開かれた学校づくり実施報告表を拝見して、専門学科の生徒が、企業等と連携を意欲的に展開されていることが伺え、大変感心させられた。</p> <p>・インターンシップで生徒は卒業生から会社について講話を聞き将来について考える機会が出来た。</p>	4
<p>2 多様性と包摂性のある教育の推進</p> <p>・社会に出てからも必要な能力となるので、今後とも力を入れて取り組んでもらいたい。</p> <p>・支援が必要な生徒に対して、一人ひとりへの多様な教育のニーズに対応するため、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との連携、中学からの申し送りを丁寧に確認し、必要に応じて個別の支援計画を立案・実施する等継続してください。</p> <p>・特別な支援が必要な生徒について、必要に応じて個別の支援計画を策定・実施している点は評価できる。課題として、グレーゾーンの生徒への対応が挙げられており、確かに生徒数も多い中でのきめ細かな対応は苦慮されると思うが、課題としてしっかりと認識されている点からも、次年度に発展的な対応を期待したい。</p> <p>・人権教育でスクールカウンセラー・ソーシャルワーカー等と連携していじめ対応に取り組むことがよい。</p>	3
<p>3 豊かな心の育成といじめ防止の取組</p> <p>・しっかり取り組まれています。設問2とも関連する項目なので、生徒の状況を良く見てあげてください。</p> <p>・定期的に人権講和等を開催し、常に生徒への心への働きかけを行い、道徳性の育成に努めてください。各学年による三者面談、進路指導部主催による保護者会、学校保健委員会の開催による学校保健活動を通して、家庭・地域との連携を深めてください。いじめ防止等の取組として、いじめに関するアンケートの実施、いじめ対応チーム会議の定期的・臨時的開催等でいじめに対する早期発見・早期対応に努めてください。</p> <p>・各学年で、人権講話等を実施されている点は充実した対応をされていると考える。いじめアンケートを年3回行い、早期発見に努めるべく、対策会議を定期的かつ臨時的に実施されている点は、大変有効に感じた。生徒数が多い上、普通科と専門学科がある本校だけに、次年度も引き続き対応いただきたいと考える。</p> <p>・一人ひとりの違いを認め合う教育がよい。</p>	4
<p>4 教育環境の整備と教員の育成・勤務環境の整備</p> <p>・平均年齢が高く、ICT活用は難しいと思いますが、業務改善に向けて取り組んでください。</p> <p>・ICTを活用した学びの実現をサポートする仕組みができてきていることは素晴らしいです。教職員の資質・能力の向上を目指した校内研修を実施し、常にコンプライアンス意識を持ち、生徒・保護者・地域社会から信頼される教員の育成を図ってください。教職員の業務改善に向けた校内の取組を検討し、働き方改革を推進し、風通しの良い、働きがいのある職場環境づくりを進めてください。</p> <p>・ICTツールについて、生徒たちにしっかりと利用させていることが伺えた。また、校内の教員体制並びに教育活動を鑑みて、学校運営協議会より尼崎市教育委員会に意見書を提出する等、専門学科運営について、課題意識を持ちながら取り組まれていることが把握できた。ものづくりといった技能系の指導者の確保は、大きな継続課題と存じますが、生徒のためにも引き続きご尽力をお願いしたいことと、地域でできることがあれば協力していきたいと考える。</p> <p>・ICTの活用した学習・風通しのよい環境づくり。</p>	4

<p>5 家庭地域社会一体となった教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・家庭との連携は学校にとって必要不可欠です。今後も継続して取り組んでください。 ・学校運営協議会を開催し、学校運営方針を共有するとともに、次年度はコミュニティースクールとして地域学校協働活動の更なる活性化を推進してください。また、学校説明会・音楽類型体験入学あるいはホームページにおける情報発信等を通してのPR活動を継続してください。「AED」及び「普通救命救急法」の講習会、「避難訓練」の実施、学校施設・設備の安全点検による危険個所の早期発見・改善等に努め、教職員及び生徒の防災意識を高揚させ、危機管理能力の更なる向上を目指してください。 ・学校運営協議会に出席しているが、学校の状況等、詳細な資料並びに説明がなされており、状況がしっかりと把握できる。 <p>防災訓練・講演会並びに救命講習会も実施されていることは、社会的にも大変有意義であると考えます。課題として提示されている、「状況に応じた的確な判断力と行動力」について、高校生ということでその点への期待は大きく、1つの選択肢として、机上シミュレーション実習(HUG:避難所運営ゲーム)といった内容を入れても良いのではないかと考える。</p> <p>ホームページについて、特に「校長室より」のサイトをイベントごとに写真付きでコメント掲載されている点は、大変貴重であり、今後もぜひ続けてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とともにある学校づくりに取り組む。 	4
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で良く取り組まれています。 ・各教科の教育目標・年間計画(シラバス)の作成ができています。素晴らしいことです。商業学科における各種検定取得の取組の中で、高レベル検定取得の成果として本年度も全商検定9冠(全商検定全科目1級合格)は顕著な成果だと思います。生徒にとって検定取得の更なる意欲向上に繋がっていくと思います。今後も卒業後の進路決定に役立つような高レベルの検定資格の取得を目指してください。 ・各教科の教育目標・年間計画がしっかりと策定され、取り組まれた点は大変評価できる。また、専門学科については、各種資格・検定取得に向けて、しっかりと取り組まれており、今年度の卒業生の進路並びに就職等についても期待したい。 ・シラバスを作成し、目標達成に向け学校全体で取り組む。 	4
<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業学科だけでなく、他学科・教科での取り組みも期待します。 ・商業学科での取組として、検定補習・課題研究(商工会議所の企画参加・地元企業との提携・小学校への出前授業等)等でかなり成果があがっているようです。今後とも教員間の情報共有をより深め、生徒の学力向上、資格取得に向けて努力してください。また外部機関との情報交換を積極的に行い、継続的な学習や新たな取組を行ってください。各種委員会・各教科等での学習指導・生徒指導・人権教育のあり方について、現状や校内のニーズに即した教職員向けの研修会等を継続的に実施し、今後とも教職員の資質向上に努めてください。 ・社会問題にもなっているいじめの問題に対して、定例の委員会での情報共有だけでなく、外部講師を呼んでの対応等、精力的に取り組まれていると感じた。 ・検定前に全ての教員が指導にあたることで検定の合格率が上がっている。 	4
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価Ⅳ
<p>アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か</p>	A
<p>自己評価の結果の内容は適切か</p>	A
<p>自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か</p>	B